



前川での経験が今につながっています。

はねだたくや 羽根田卓也選手

リオデジャネイロ五輪、カヌー・スラローム男子(カナディアンシングル)でアジア初の銅メダルを獲得。愛知県豊田市出身・ミキハウス所属

安曇野の印象・気に入っていることは？

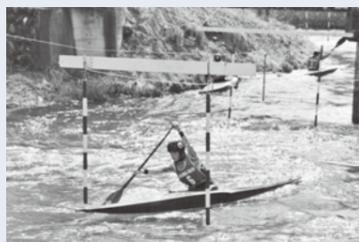
きれいな水と空気がおいしいところです。来る度に食べたニジマスの円揚げが大好きです。

自分の記念大会ができた感想は？

前川は、小中学校時代、何度も訪れ、刺激をもらったコースです。大澤さんには、2008年の北京五輪アジア最終予選前の合宿地として環境を整えてもらい、恩返しをしたかったです。記念大会を開催してもらい感謝しています。この大会に多くの人が参加してくれ、カヌーの魅力・楽しさが伝わったと思います。できれば毎年訪れたいと思います。

2008年の前川での合宿については？

前川での合宿練習でいい調整ができ、北京五輪に出場を果たし、その経験がロンドン五輪やリオ五輪にも生き、今回のメダル獲得につながっています。



前川での全日本ジュニア強化合宿で練習する羽根田選手(平成13年3月)

2020年東京五輪へ向けては？

地元開催が一番盛り上がると思います。大会に向けて初心に戻って一年一年を大切に、自分が出場できるよう練習を重ねたいです。



デモンストレーションをする羽根田選手

リオ五輪・カヌー銅メダル 羽根田卓也選手 原点の地明科で記念大会

8月に開催されたリオデジャネイロ五輪のカヌー競技で銅メダルを獲得した羽根田卓也選手を祝福する記念大会が、原点の地、明科龍門淵公園内前川の常設カヌー・スラロームコースで初開催されました。

羽根田選手原点の地に凱旋

大会は、明科龍門淵公園内の前川のコースに、羽根田選手が小中学校時代から合宿や大会で度々訪れたことから、リオ五輪銅メダル獲得を機にカヌー愛好家や市民有志らが企画したものです。大会当日の9月25日には、メダル獲得を祝い全国から小学生から70代まで93人が参加しました。会場では羽根田選手によるデモンストレーションも行われ、約500人の観客で賑わいました。

主催者の大澤勇治さん(松本市)は「カヌー界の歴史を変えてくれた」とアジア初のメダル獲得を喜んでいました。また、市が東京五輪のホストタウンに決定したことにも触れ「前川は、選手を間近に見ることができ、街中で利便性も高く、日本でもまれなコースです。大会をきっかけに、4年後、オーストリアの選手が訪れ、多くの皆さんで盛り上げて欲しい」とカヌー競技への関心の高まりを期待していました。



スタート地点で順番を待つ選手の皆さん



5000メートル決勝を走る樋口選手(写真:フォートキシモト)

リオパラ・車いす陸上競技 樋口政幸選手(豊科) 2種目で入賞

9月に開催されたリオデジャネイロパラリンピックの陸上競技男子車いすトラック競技(T54クラス)に出場した市内在住の樋口政幸選手(豊科・プーマジャパン所属)が、出場3種目中、5,000メートルでは4位、1,500メートルでは8位と2種目で入賞しました。

世界の強豪ひしめく2種目で入賞を果たす

樋口選手は前回のロンドンパラリンピック出場後、トラック競技に専念。本大会は、世界の強豪がひしめくT54クラスで5000メートルでは4位と惜しくも僅差でメダルを逃しましたが、2種目で入賞を果たす健闘を見せました。

パブリックビューイングで市民が応援

1500メートル決勝が行われた9月14日の早朝、市役所でパブリックビューイングが行われました。当日は、宮澤市長や「樋口政幸選手を応援する会」の皆さんなど約100人が集まり、法被姿や鳴子を鳴らしてレースを応援しました。

レース前半2週目で先頭に立つと「頑張れ」「いけるぞ」の声や響き、会場は大いに盛り上がりました。終盤、追い抜かれメダルには届きませんでした。会場からは大きな拍手が樋口選手に贈られました。



パブリックビューイングで応援する宮澤市長と市民の皆さん(9月14日・市役所)

応援した遠藤作子さん(穂高)は「メダルは逃したけれど世界の4位と8位です。勇気を与えてくれ、感謝の気持ちでいっぱいです」と話してくれました。10月15日には、豊科交流学習センター「きぼう」で帰国報告会が行われました。